

第12回伊賀市非核平和推進中学生広島派遣事業



市内の各中学校の代表として、生徒10人を8月5日から2日間広島市へ派遣しました。参加した生徒は、それぞれの学校の生徒一人ひとりが平和への祈りを込めて折った千羽鶴を原爆の子の像へ捧げました。また、平和記念式典への参列や平和記念資料館の見学、被爆体験講話などを通じて、71年前に起きた人類史上最初の原子爆弾による悲惨な現実を、見て、聞いて、肌で感じて、非核平和への思いを新たにしました。その内容を生徒のレポートからお伝えします。

広島派遣：平成28年8月5日（金）、6日（土）

■行程

5日～ 被爆体験講話聴き取り

原爆ドーム見学

原爆の子の像へ千羽鶴捧げ

広島平和記念資料館見学

6日～ 広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式（平和記念式典）参列

平和演劇鑑賞

被爆体験講話の聴き取り

小学5年生（11歳）の時、爆心地から2kmの自宅で被爆された、瀬越睦彦さんから話を伺いました。



◆青山中学校 古市 弘樹

語り手の瀬越睦彦さんは、戦争に振り回された少年時代を語ってくれました。その中で瀬越さんは、「戦争は子どもの心まで鬼にする」と言っていました。この言葉から、人の心に悲しさを突き刺した戦争の残酷さを感じました。



◆島ヶ原中学校 吉川 大翔

私は瀬越さんの言っていた「戦争は人の考えさえもおかしくする」という言葉が印象に残りました。

人の性格さえも変えてしまうほど戦争はおそろしいものだというのを改めて感じる事ができました。



原爆の子の像

市内の中学生一人ひとりが折った千羽鶴を捧げました。



◆城東中学校 宮本 京和

原爆の子の像には、小さな子から大人まで全国の人たちが作った鶴が捧げられていました。

そこには、二度と戦争をしてほしくない、核兵器を使ってほしくないという思いが込められていて、平和を心から願う気持ちを感じました。

原爆ドーム

原爆の惨禍を伝え、核廃絶と人類の平和を求める誓いのシンボルである原爆ドームを見学しました。



◆緑ヶ丘中学校 中 瑞希

広島はとてもきれいでした。

しかし、原爆ドームは焼け焦げていて、その恐ろしい姿からは、本当に原爆が投下されたんだと実感することができました。ここで感じた悲しい気持ちを忘れないようにしたいです。

原爆の惨状を示す写真や資料を見学しました。



◆崇広中学校 平田 智千

平和記念資料館では、無残に溶けた皮膚や顔がなくなった少女の写真などを見学し、それがとても心に突き刺さりました。

原爆は全てを破壊するのだと改めて感じ、核兵器廃絶への気持ちがより一層強くなりました。



◆上野南中学校 森下 梨乃

平和記念資料館に行って、写真を見てとても心が痛くなりました。

一番印象に残っているのは、皮膚が垂れ下がっている人形があったことです。それを見て、本当に戦争は怖いものだと実感できました。



平和記念式典

広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式に参列しました。



◆大山田中学校 川極 景勝

日本人だけでなく、外国の人も平和記念式典に参加していたところを見て、世界中の人々が平和を願っていると改めて感じました。

世界中の心が一つになって、核兵器のない平和な世界をめざしていきたいです。



◆霊峰中学校 福永 怜央

暑い中、世界各国や日本全国からたくさんの方が、原爆が投下された広島を訪れて式典に参加していました。

僕も、その一人として参加させていただき、その場にいた大勢の人の世界平和を祈る気持ちを感じました。



広島市舟入高等学校演劇

広島市舟入高校による創作劇「八月の青い蝶」を観賞しました。



◆柘植中学校 上地 一輝

青い蝶の標本には、切ない少年の日の記憶が刻まれていました。愛する人を簡単に消し去ってしまう戦争の恐ろしさを改めて感じました。

普通に夢を持ったり、人を好きになったりすることをなくしてしまう戦争は、あってはならないものだと思いました。



◆阿山中学校 藤原 優佑

一発の原子爆弾が一人の若い女性の「命」と「未来」を奪い、少年の心を傷つけました。

原爆の被害とは、町がどれだけ焼けたとか目に見えるものだけじゃなくて、人の心をどれだけ傷つけたかということだと思いました。

